

第8分科会 指導・育成 「リーダー育成」 運営概要

【研究課題】

「これからの学校を担うリーダーの育成と校長の在り方」

I 分科会研究協議の運営計画

社会が急激に変化する中、知識基盤社会の進展、グローバル化など、高度化・複雑化する課題への対応が求められ、学校教育における課題も多様化・深刻化している。このような中、学校においては、教職員一人一人の力量を高め、学校組織としての教育力を高め、子どもたちに生きる力を確実に育むことが、学校経営の最重要課題となっている。

学校における組織力向上のためには、校長のリーダーシップの下、中核的役割を果たすミドルリーダーの存在が不可欠である。しかしながら、各学校とも、ミドルリーダーとなり得る年齢層の教員が、全体的に少ないという現実がある。

学校にとって、今後の学校運営を担うミドルリーダーの育成は喫緊の課題である。ミドルリーダー育成に向けては、学校組織として、意図的・計画的に研修を行い、学校運営への参画意識の醸成と具体的な仕事内容の理解を進めていく必要がある。

また、ミドルリーダーには、若手教員の育成及び、組織運営の活性化を図る役割も求められている。ミドルリーダー育成については、教育活動全体を見渡せる広い見識と実践的指導力や教職員同士及び教職員と管理職をつなぐ調整力を育成することが重要である。さらに、教科指導や学級経営、生徒指導等を組織的に展開する企画力・調整力が求められる。こうした人材の意図的・計画的育成が重要となる。

本分科会では、教職員の資質・指導力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と学校の中核を担うミドルリーダーや次代の学校経営を委ねる管理職人材を、校長として学校現場において育成していくための具体的方策と成果を明らかにする。

視点 1 学校教育への確かな展望をもち、実践力と応用力を兼ね備えたミドルリーダーの育成

- ・ミドルリーダーに求められる資質・能力を引き出し、その育成に向けた学校づくりの推進
- ・ミドルリーダー育成に向けた人材発掘及び組織的・計画的な育成への取組

視点 2 時代の潮流を見つめ、豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成

- ・管理職としての資質・能力の向上を図る具体的方策

II 昨年度までの成果・課題（～平成 30 年度 函館大会より～）

〔成果〕

- (1) 育成すべき資質・能力を明らかにし、中核となる業務推進に当てるなど、意図的・計画的にミドルリーダーや管理職人材を育成することが重要である。
- (2) ミドルリーダー育成にあたって、校内組織での取組に加え、校長会としての取組や教育委員会等関係機関との連携など、将来を見据えた組織的な推進を今後も継続することが重要である。

〔課題〕

- (1) 人材不足解消に向けて、具体的な取組が必要である。
- (2) 学校規模や地域の課題に応じた育成の手立てへの対応が必要である。

二つの提言から、求められるリーダー像を最低でも市や町の校長会、できれば大きなエリアの校長会で共有することの必要性を明確に打ち出した。

グループ協議では、ミドルリーダーの発掘と育成、管理職人材としての資質・能力の育成に焦点を当て、話し合いが進められた。同じ日本でも県が違くと主幹制度や人事評価の仕方など、システムでも大きな違いがある。なぜそういうシステムかを交流する中で、今までにない視点から物事を考えることができた。

Ⅲ 研究発表の概要

◇研究発表者：渡島地区 森町立さわら小学校 後木 明生

「キャリアステージにおけるリーダー育成を目指した校長のリーダーシップの在り方」

◇発表の概要

教育改革が大きく進む今、学校では「新たな知を拓く」教育の実践が求められ、多様化する教育課題の解決に向け、学校の組織力を高めていくことが重要になっている。学校の教育目標の具現化に向け、教員一人一人の力量を高め、チーム学校としての教育力を向上させ、子どもたちに生きる力を確実に身に付けさせていかななくてはならない。そのためには、組織の要となるリーダーやそれを統括・指導する有能な管理職人材の存在が不可欠である。そのため校長は、教員一人一人の特性や適性を見極め、資質・能力の向上を図るとともに、意図的・計画的に人材育成を進めることが求められている。

本研究では、校長としてこれからの学校を担う人材の育成に向けた確かな展望をもち、自ら行動することができるリーダーの育成や、地域や学校規模、それぞれの教員のライフサイクルを意識した育成の視点について実践をもとに考察し、具体的な方策を明らかにする。

Ⅳ 協議の流れ（案）

1 開 会：日程確認（5分）	13:00～13:05
2 趣旨説明（10分）	13:05～13:15
3 研究発表（25分）	13:15～13:40
4 研究協議①（20分）※研究発表に対する質疑	13:40～14:00
5 休憩（15分）	14:00～14:15
6 研究協議② グループ協議（80分）※休憩含む	14:15～15:35
7 研究協議② 発表・全体協議（35分）	15:35～16:10
8 まとめと今後の課題（15分）	16:10～16:25
9 連絡・閉会（5分）	16:25～16:30

Ⅴ 討議の柱

【視点1】学校教育への確かな展望をもち、実践力と応用力を兼ね備えたミドルリーダーの育成

【視点2】時代の潮流を見つめ、豊かな人間性を身に付けた管理職人材の育成

キーワード：ルーキー・ホープ・ミドル・ベテラン期など、ステージごとの人材育成
教員間の相互育成意識 責任ある役割 高い自己目標の実現
学校全体を見渡す経験 自己変容力 活躍する機会 学校経営の魅力

◎討議の柱

キャリアステージに応じた意図的・計画的な人材の育成

- 若手教員をどのように育成していくか
- ミドルリーダーになる教員をどのように育成していくか
- 管理職人材をどのように育成していくか
- ベテラン教員にどのような達成感・有用感をもたせていくか

Ⅵ お願い

- ◇グループ内で名刺交換を行いますので、名刺6枚程度を持参ください。
- ◇グループ内での司会・記録をお願いする場合があります。その際はよろしくお願ひします。
- ◇各地区・各校の現状や取組についてグループ内で交流いたします。
- ◇地区・自校で本分科会のテーマに即した取組がありましたら、A4版1枚程度にまとめて（表裏印刷可）10部程度お持ち寄りください。
- ◇服装は、ノーネクタイ＋上着ありのクールビズを基本といたします。